

令和4年度 第2回沖縄県がん診療連携協議会 離島・へき地部会議事要旨

日 時：令和4年8月9日(火) 15:30～16:40

場 所：Zoom を利用した Web 会議

出 席：14 名

松村敏信(県立宮古病院)、菊池馨(県立八重山病院)、赤松道成(北部地区医師会病院)、新崎博美(県立宮古病院)、外間早紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)、我如古春美(北部地区医師会病院)、戸板孝文(県立中部病院)、吉田幸生(県立中部病院)、真栄里隆代(ゆうかぎの会)、石田浩子(県立八重山病院)、砂川洋子(ゆうかぎの会)、田盛亜紀子(やいまゆんたく会)、有賀拓郎(琉球大学病院)、増田昌人(琉球大学病院)

欠 席：3 名

朝倉義崇(県立中部病院)、友利寛文(那覇市立病院)、黒島富士子(やいまゆんたく会)

陪 席：1 名

並里亜衣

〈報告事項〉**1. 令和4年度 第1回離島・へき地部会議事要旨について**

赤松副部会長より資料1に基づき、令和4年度第1回離島・へき地部会の議事要旨について説明があり、変更等あれば事務局へ連絡するよう説明があった。

2. 療養場所ガイド改訂、出版について

増田委員より、6月28日に療養場所ガイド編集委員会を開催したとの報告があった。変更要望箇所については、事前にアンケート調査を行い、情報の更新、レイアウトの変更等が挙げられた。また各病院で対応できること・できないことに関しては、離島・へき地部会で作成した「離島・へき地における疾患別対応表」を参考に編集をすすめ、9月半ばまでに1冊たたき台を作成しディスカッションするとの説明があった。

3. その他

特になし。

〈協議事項〉**1. 離島・へき地における疾患別対応状況の改訂について**

増田委員よりがん診療連携協議会 HP がんじゅうへの掲載について、7月末までに各施設から提供いただいた情報をもとに更新を行ったとの説明があった。また、今後の

更新の仕方については、細かい修正は随時行い、年度明けは5月頃(ゴールデンウィーク明け)に大改訂を行う予定であるとの説明があった。

戸板委員より、前回の部会で△表記部分の補足説明を加えることとなっていたが進捗はどうかとの質問があり、増田委員よりまだ対応できていない為、早急に進め、補足説明を追加した時点で各委員へお知らせするとの回答があった。また説明の追加場所については、表と凡例の間に入れるとの説明があった。

2. 各病院の課題について

渡航費補助の申請の際に必要な証明書(医師からの意見書)が地元の病院からではなく、本島内の病院から発行されていることが多いとの説明があった。

田盛委員より、八重山におけるがん患者の現状について地元の病院を優先してほしいが、専門医のいない病院へ行きたがらない現状があり、がん患者さんの多くが本島の病院へ行く患者さんが多いとの説明があった。また、前回の協議会で挙げられた「意見書の無料化」について再検討してほしいとの意見があった。

赤松委員より、患者さんが中南部の病院へ流れてしまうのをどう防ぐかが今度の課題として挙げられ、有賀委員より今後地元の病院のブランディングが必要になるとのコメントがあった。

3. がんサポートハンドブックの新版について

増田委員より資料4に基づき、2023年度に発行予定のがんサポートハンドブックに掲載する「がん診療を行っている医療施設一覧」について説明があった。

2022年度版の出版の際、ページ数削減の為、2021年度版のような診療を行っているがん種を記号(○ー)で示した表記から2022年度版のような問い合わせ先と掲載要件を充足しているがん種が一体となっている表記になった経緯や、2022年度版発行後、対応状況について問い合わせが何件かある現状についての説明もあった。

赤松委員、菊池委員より2021年度版に戻した方がいいのではないかと意見が挙がり、増田委員より次年度版は2021年度版のような形式に戻す形で進める予定との回答があった。

赤松委員よりがんサポに掲載されている掲載要件について質問があり、増田委員より県庁のHPに記載されているものを使用しているとの回答があった。

真栄里委員より表中に術中細胞診を行っているか記載してはどうかとの意見があり、増田委員より今回の条件には入っていない為、今回は見送られることとなった。

4. その他

次回の離島・へき地部会の開催日程について確認があり、事務局より11月8日(火)15:30より開催の予定と回答をした。